# 題材名 「 立ち上がった絵のせかい 」　（第３学年及び第４学年　絵や立体、工作）

## ■本事例のポイント

１.児童が学び方を選択できる学習環境を整え、自分の思いに合わせて粘り強く表現することにつなげた。
２.他者の考えに触れる鑑賞の場面を設定することで、児童の発想を広げ、学習調整を促した。

## ■題材の目標

立たせた紙の表や裏の関係から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表すとともに、作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、進んで表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組む。

## ■題材の指導計画（6.0時間）

### １．導　入（0.5時間）

・紙を立たせると、表と裏の二つの見方が生まれることを知る。
・いろいろな紙の立たせ方を試す。

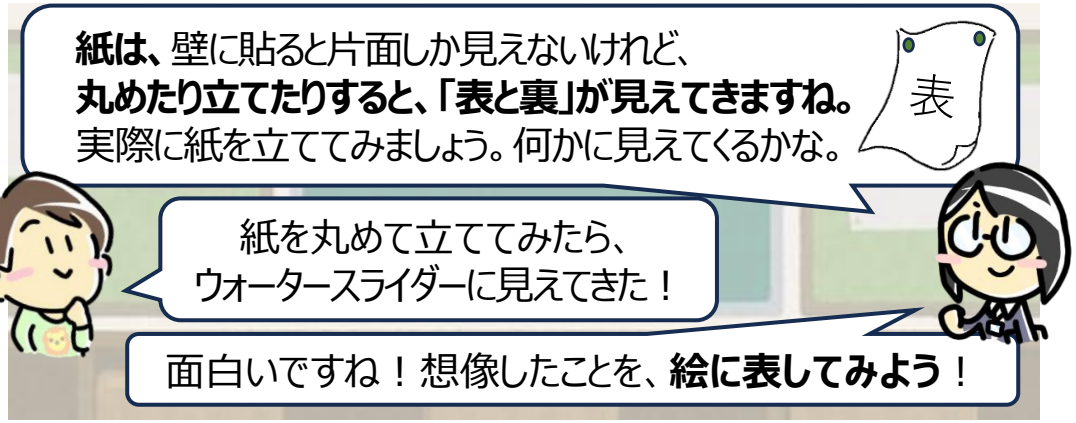
### ２．展　開（4.5時間）

・想像した世界に合う表し方を考えながら絵に表す。
・友人と交流しながら、更に想像を膨らませて、工夫して絵に表す。

### ３．振り返り（1.0時間）

・自分や友人の作品について、表したかったこと、表し方のよさや面白さを味わいながら、鑑賞する。

## ■題材の概要



↑試しに立ててみる。
（クリップで仮止め）
想像を膨らませる。

↑絵の具やクレヨン等で
「表と裏」を彩色する。
テープ等で接着する。

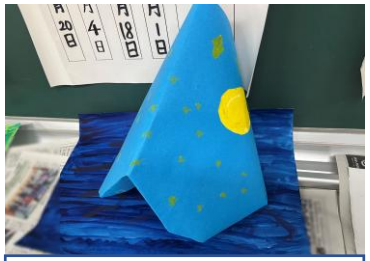
←児童作品
外側から眺めた様子。

→児童作品
内側からのぞき込んだ様子。

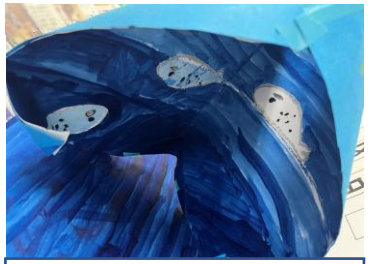
## ■学習調整をしている子供の姿

**子供が学び方を選択・決定する場面の設定**

## ■完成作品



↑児童作品　外側からの様子。



↑児童作品　内側からの様子。

## ■指導と評価の工夫

**① 自然と友人とつながる学習環境の設定**

＊班で向き合う形を基本とすることで、互いの作品について、鑑賞し合ったり、話し合ったりしやすくする。
＊児童の学習上の必要感に応じて、児童が自由に離席し、友人の活動を見に行くことができる学習環境を設定する。

**② 「材料コーナー」を教室内に設置**

＊様々な種類の画用紙や紙を固定するテープ、画材などを「材料コーナー」に用意し、児童が自身の思いに合わせて、自由に選択できるようにする。

**③ 学習方法の選択を保障する環境づくり**

＊下書きの有無や彩色に移るタイミングは、児童が決める。
＊教科書に掲載されている作品等を鑑賞できるようにする。
＊児童の困り感や必要性に応じて、指導者が個別に支援する。

### ■成果（○）と課題（▲）

○指導者用端末のカメラ機能と大型モニターを活用して、丸めて立たせた紙の内側を画面に映すことで、紙の表と裏、内と外を意識させることができ、その後の豊かな発想につながった。
○それぞれの児童が自分の想像したことに合った画材や技法を選択しながら、製作することができた。
▲本題材で製作する作品のイメージを、児童と共有する点に課題があった。板書で条件などを明確に示すことが考えられる。

【活用したアプリや機能】指導者用端末のカメラ機能